

2026-10-13

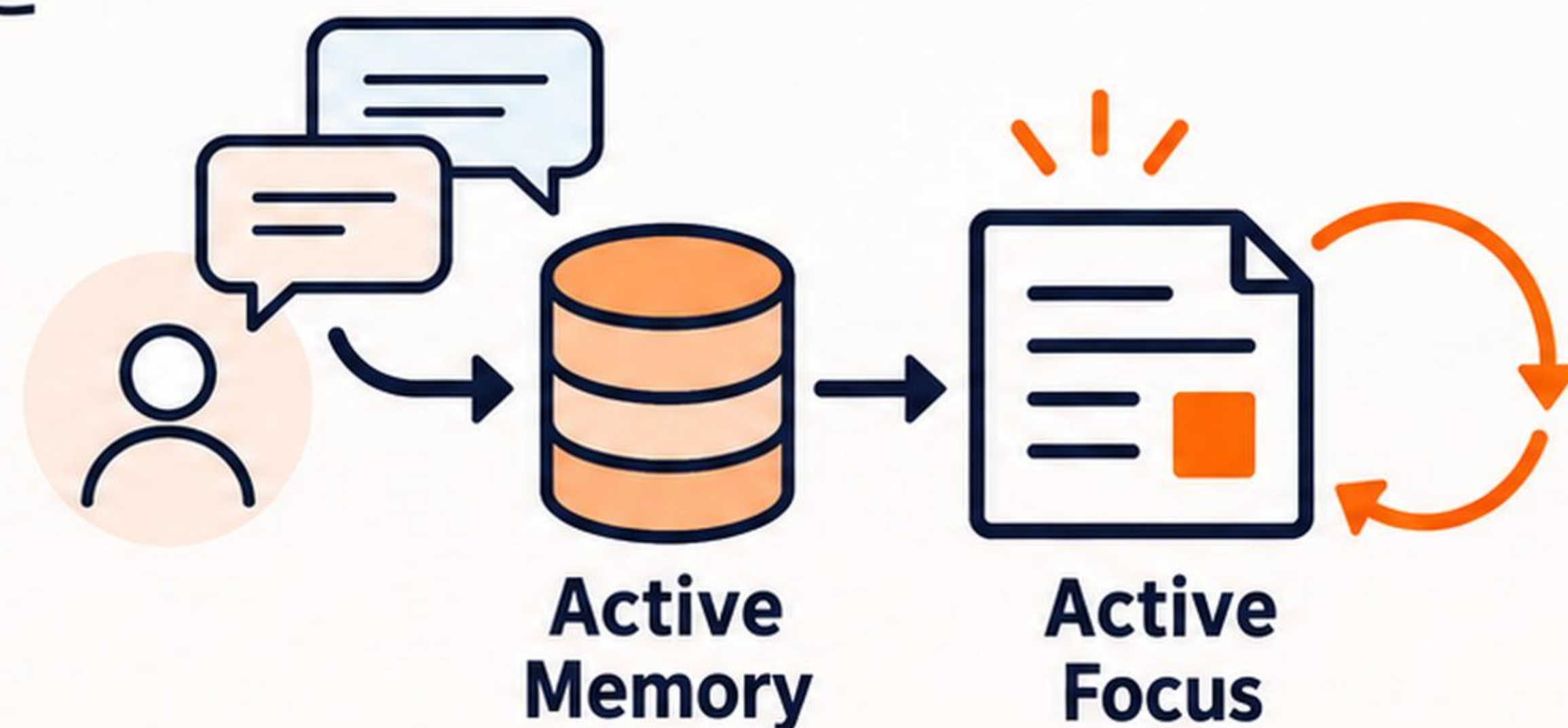
1. Muse Wonder、会話の記憶と継続作業を重視
2. AI GatewayからMuse Wonderを利用
3. Agents SDKでWeb検索から本文取得まで

注目3件

Muse Wonder、会話の記憶と継続作業を重視

Metaは、個人や業務の作業を担うMuse WonderとMuse Wonder Fullを発表しました。

- Muse WonderとMuse Wonder Fullの2モデル
- Active Memoryで過去の会話から必要な情報を取得
- Active Focusで長い作業の試行・修正を継続

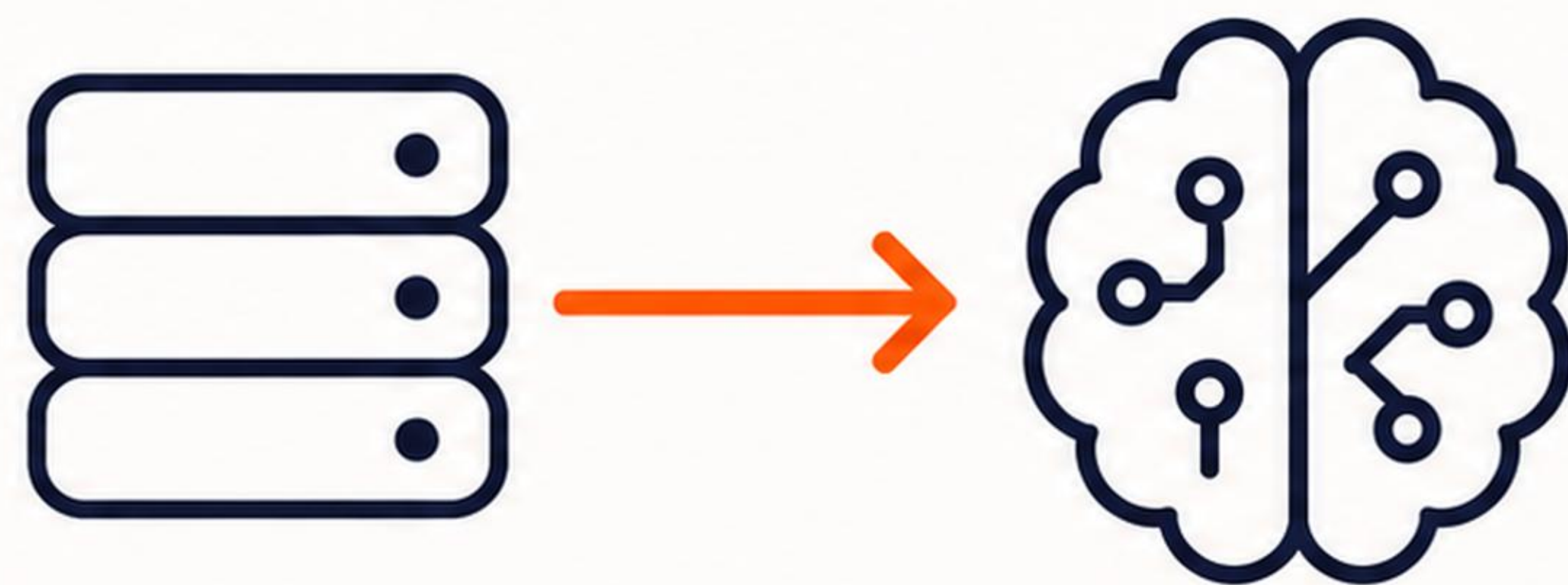


AIに長い仕事を任せる際は、回答の正しさに加え、過去の条件を覚えているか、失敗後に立て直せるかを比較できます。

AI GatewayからMuse Wonderを利用

Vercel AI GatewayがMetaのMuse Wonderに対応しました。

- モデルIDはmeta/muse-wonder-1.0
- 入力枠は100万トークン
- 画像・PDF入力とツール呼び出しに対応



AI Gatewayを使っているアプリなら、既存の呼び出し方でモデルを比較できます。

Agents SDKでWeb検索から本文取得まで

Cloudflare Agents SDKに、Webを検索するweb_searchとページを読むweb_fetchが追加されました。

- web_searchはAgents SDK v0.27.0以降

- web_fetchはv0.28.0以降

- 検索と本文取得を組み合わせて使用

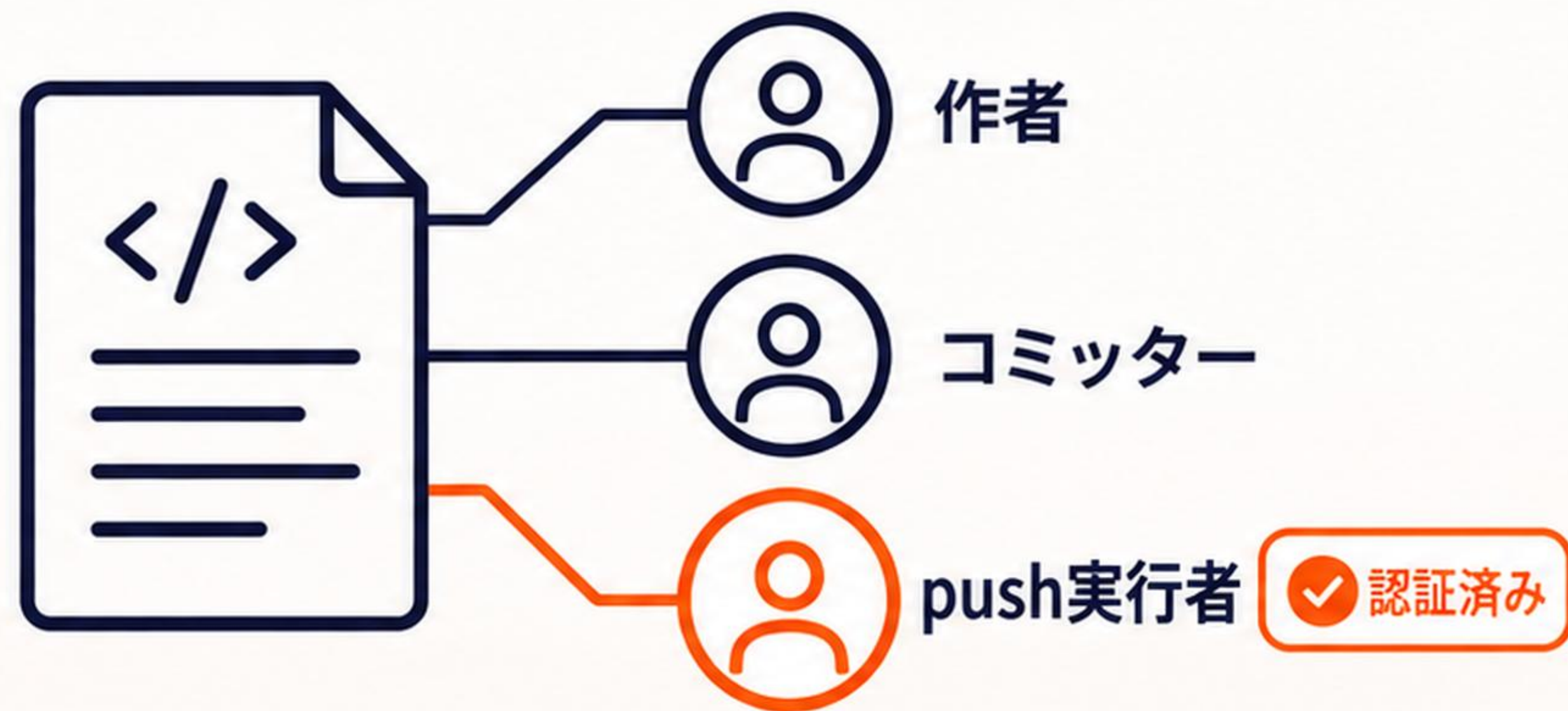


検索結果の短い説明だけで答えるAIから、元ページを読んで答えるAIを作りやすくなります。

GitHub、誰の認証でpushしたかを記録

GitHubは、コミットをpushした認証済みユーザーを記録し、作者・コミッターと並べて表示する機能をEnterprise向けの限定プレビューで公開しました。

- push実行者を作者・コミッターと別に記録
- 認証済みの実行者をUIとAPIに表示
- メール的一致を求めるリポジトリルールを追加



AIや自動化がコードを送る運用でも、作者欄の文字列だけに頼らず、どの認証で入った変更かを追えます。

Workers更新時の猶予、最大20分に

Cloudflare Workersは、ランタイム更新時に進行中のリクエストや接続を待つ猶予を、最大30秒から最大20分に延ばしました。

- ランタイム更新時の猶予は最大20分
- 従来は最大30秒
- 長いHTTP応答やAIの逐次出力が対象

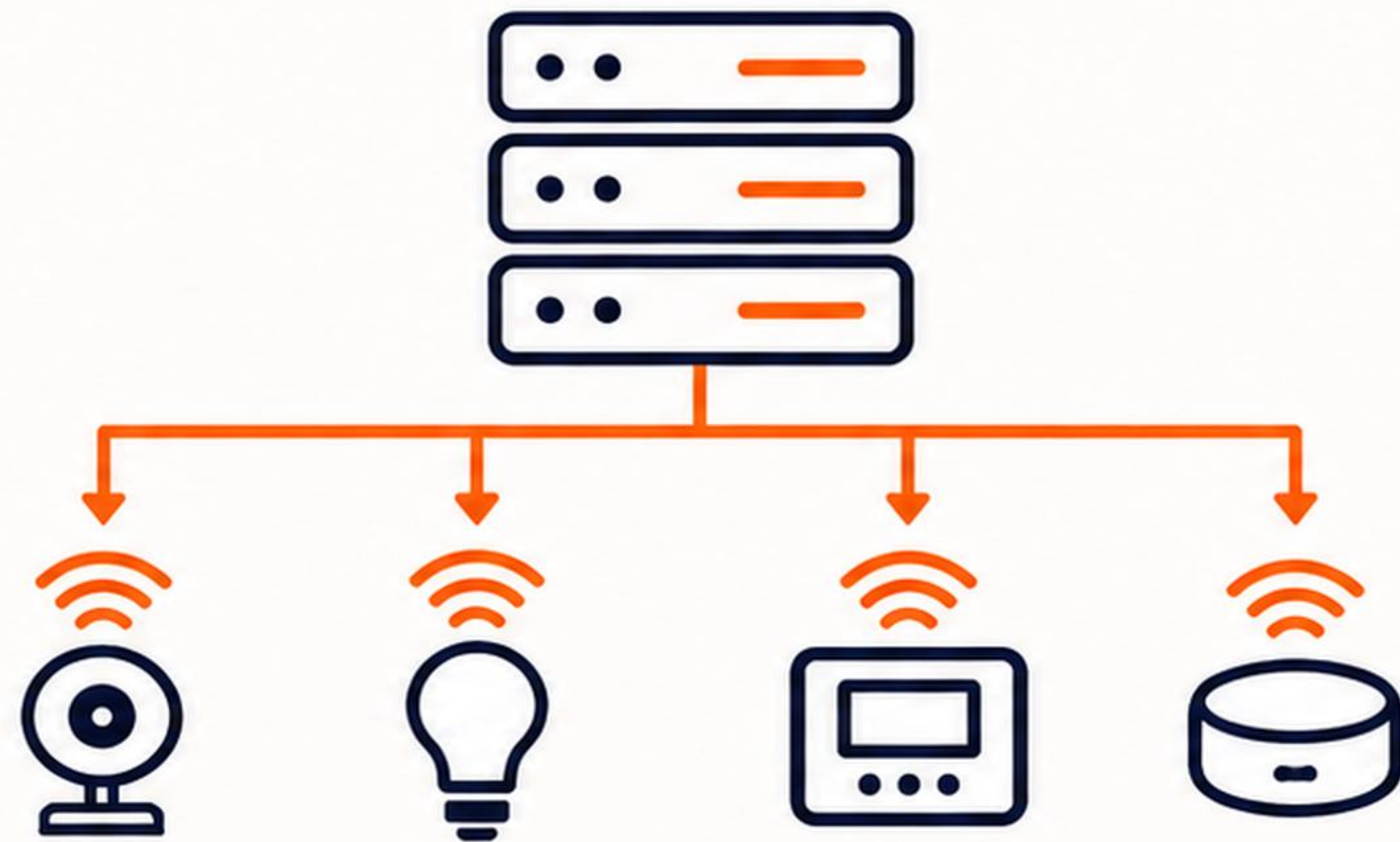


AIの回答を少しずつ返すアプリでは、ランタイム更新による途中切断を減らせます。

〈研究〉小型AIの自律複製、できた範囲を検証

Anthropicは、IoT機器でAIを動かす準備と、複数の機器へ処理を広げる能力を評価しました。

- 推論環境の構築と一連の複製を分けて評価
- 侵入部分は認証なしの簡略化環境
- GLM-5.2の推論は別のサーバーで実行



AIの能力を読むときは、成功した作業と実験で省いた条件を分けると、リスクを過大にも過小にも見積もらずに済みます。

本日のトピック一覧

1. Muse Wonder、会話の記憶と継続作業を重視
2. AI GatewayからMuse Wonderを利用
3. Agents SDKでWeb検索から本文取得まで
4. GitHub、誰の認証でpushしたかを記録
5. Workers更新時の猶予、最大20分に
6. 〈研究〉小型AIの自律複製、できた範囲を検証